

「神様は決して忘れない」

今回のアドベントの礼拝では、実は「忘れない」という言葉を中心に説教題を立てて、語って参りました。第 1 アドベント礼拝では、およそ 800 年間も人々は救い主誕生を忘れずに待ち続けてきたことをお話し、第 2 アドベント礼拝では、そんな気長に待ち続ける人々に対して、神様も熱意と熱情を持って必ず報いることを忘れない方であることをお話ししました。そして、今日、第 3 アドベント礼拝でも、神様が決して約束を忘れない方であることを、ご一緒に見ていきたいと思えます。今から 2000 年前に実現した救い主誕生という出来事。しかし、その先駆けとしての預言や、前提となる約束は、さらにもっと古くから存在していました。神様は約束を守る誠実な方である、ということを受け入れる上で、いかに神様が、その始まりから一貫して同じ御言葉を語っておられたのか、ということを知るのには意味があると思えます。

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる」。この御言葉は、イザヤ書 7 章 14 節から取られた非常に有名な 1 節であると言えます。「その名はインマヌエルと呼ばれる」と。そして、この「インマヌエル」という名前について、さらに「この名は、神は我々と共におられる、という意味である」と説明がなされています。非常に印象的な名前の意味になっていますが、「神は我々と共におられる」という福音が、初めて語られたのは、イザヤ書 7 章 14 節よりも、さらに大昔のことです。旧約聖書をずーっと遡りまして、創世記 26 章 24 節には、こう書かれています。「その夜、主が現れて言われた。「わたしは、あなたの父アブラハムの神である。恐れてはならない。わたしはあなたと共にいる。わたしはあなたを祝福し、子孫を増やす、わが僕アブラハムのゆえに」。これは、ゲラルという土地で、アブラハムの子であるイサクが、井戸を巡る

争いに巻き込まれていた時に、神様から与えられた祝福の御言葉です。この御言葉には、しっかりと「わたしは、あなたと共にいる」という、神様の約束が含まれています。また、創世記 28 章 15 節にも、こう書かれています。「見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない」。これは、イサクの子ヤコブが、子孫繁栄のために旅に出た先で、夢を見ている時に神様から頂いた祝福の御言葉です。この御言葉は、私も時々、祝祷に用いることもあります。神様がいつも共にいてくださり、どこへ行っても、何があっても神様が守ってくださる。そんな嬉しい福音が込められた御言葉です。もう少し時代が進んで、出エジプトの手前、モーセが神様に見出された時にも同じ福音が語られました。出エジプト記 3 章 12 節「神は言われた。「わたしは必ずあなたと共にいる。このことこそ、わたしがあなたを遣わすしるしである」。まあ、結局、モーセさんは、この頼もしい御言葉を聴いても、「はい、分かりました」とは言えなかったのですが、でも、神様の方は、かなりの前傾姿勢でモーセさんの隣にいてサポートする御考えがあったのだと言えます。これ以降も、ヨシュア記や士師記に、神様の助けを必要とする人に対して、「わたしはあなたと共にいる」という神様からのメッセージが届いています。

と言うように、「インマヌエル」「神は我々と共におられる」という信仰は、創世記の時代からずっと人々を励まし続けてきたものだという事です。神様の「わたしはあなたと共にいる」という約束は、イサクやヤコブの時代から続く超長期的な契約期間を誇る、ユダヤ教・キリスト教に共通する非常に効力の長い福音なのです。

神様は、その歴史の最初から、聖書で言えば、アダムとイブの時から、ずっと人の隣にいて、時に祝福し、時に怒りを示す、そんな関係が続けて来られました。そして、時機を見て「わたしは、あなたと共にいる」と語り掛け、その時代を生きる人々を励まして来られた。そういう歴史的な積

み重ね、繰り返しのあった先に、いよいよ、本当に隣人として、痛みや喜びを分かち合える友人として、共にいてくださる方「御子イエス・キリスト」がお生まれになった、ということです。

2000年前の最初のクリスマス。大昔から言われ続けてきた「わたしはあなたと共にいる」という御言葉は、文字通り受肉したと、そう表現できるでしょう。「神様は、本当に私たちと同じ場所、同じ時代、同じ喜び悲しみを味わう、この場所に現れてくださった」。信仰の先達が折に触れて励まされた神様の祝福の御言葉が、今、目の前の飼い葉桶の中に眠っておられる。その出会い、その経験って、いったいどれほどの驚きであり、喜びだったのだろうか、と想像します。「わたしはあなたと共にいる」「神は我々と共におられる」という御言葉が実現し、この手で触れることができる。抱き上げることができる・・・。

私たちが、これから迎えるクリスマスは、非常に長い間、神様が語り続けてきた御言葉が実現し、目の前に現れた日であります。その驚き、その喜びを、2000年後を生きる私たちは、100%完全に再現することはできないかも知れません。しかし、聖書を読んで、蠟燭を灯して、キャロリングを行い、クリスマスツリーを飾り、大切な人のためにプレゼントを準備し、・・・という、そんなアドベント、クリスマスの様々な所作を通して、私たちが御子イエス・キリストの誕生を初めて知った人たちの喜びを追体験することができるのだと思います。人の集まりの中に、神様の愛を、イエス様の恵みを感じられるのが、クリスマスの喜びと言えます。「わたしはあなたと共にいる」「神は我々と共におられる」という太古の約束は、今なお生きて、私たちの心を温め、励ましてくれます。神様は、今なお、決して約束を忘れることはないのです。今年のクリスマスも、神様が私たちへの約束を忘れず、祝福に満たされたひと時をお与えになることを信じて、あともう少しの日々、待ち望んで参りたいと思います。1週間後、私たちが神様とイエス様が隣にいてくださることを感じられるような、それほどに豊かなクリスマスを迎えることができますように。心から期待

し、祈るものであります。

お祈りを致します。

神様。今日、クランツの3つ目の蠟燭に火が点りました。2023年のクリスマスまで、あと1週間です。あなたは、太古の昔から、私たちと共にいてくださることを約束し、時に応じて、励ましと祝福を与えてくださいました。その約束は、今なお断たれることなく、続いており、私たちの人生においても、あなたの隣在と、御子イエス・キリストの降誕を喜び祝うひと時を与えてくださいます。どうか、神様、「インマヌエル」の約束に相応しいだけの祝福と恵みを、今年のクリスマスにおいても、味わい、分かち合うことができますように、お守りください。あなたがいつも共にいてくださることを信じて、私たちが穏やかに、健やかに、新しい1週間を過ごすことができますように。アドベントの残りの日々を待ち望むことができますように。導いてください。

このお祈りを、我らの主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。